

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰに向けた事前・事後指導のための科目である。1年次の授業での経験を踏まえ、保育士としての専門性や現場での実践知をより高めるための準備・事後考察を目的とする。子どもとの関わりのみではなく、保育所の現状や保護者からのニーズ、法的環境等、多角的に保育を捉える視点を養い、より良い実習に繋げることを目指す。保育士としての実務経験に基づいて独自の教材を準備、保育園等にて保育業務に携わる知識・技能と実践について幅広く学んでいく。

授業計画

第1回	ガイダンス（保育者の職務と倫理、保育者の在り方について）
第2回	保育実習について（目的/概要/実習の流れ/課題）
第3回	保育所の一日の流れ（保育所における保育計画・指導計画を理解）
第4回	子どもの発達に応じた保育のあり方（乳幼児の発達を理解）
第5回	グループワーク①：教材特性の理解（制作:ふしぎなカード）
第6回	グループワーク②：視聴覚教材特性の理解（絵本・紙芝居の読み聞かせ）
第7回	実習日誌の書き方①（日誌の書き方と意味）
第8回	部分実習指導案の書き方（0～5歳児の活動のねらい）
第9回	部分実習指導案の書き方（題材・活動内容等の記入について）
第10回	グループワーク③（読み聞かせ/模擬保育）
第11回	実習園でのオリエンテーションの受け方
第12回	実習日誌の書き方②（日誌の目的・内容と方法）
第13回	グループワークの発表会と保育内容の考察
第14回	保育所実習を前にして（より良い保育専門職となるために）
第15回	保育実習Ⅰの実習直前指導（実習の持ち物・心構えなど）
第16回	保育実習Ⅰの事後考察（自己評価/報告書作成/グループディスカッション）

※外部講師を招聘して講演会を聴講する場合もあり得る。計画表等は授業内にて周知する。

到達目標

1. 保育実習の意義・目的の理解
2. 保育所における保育・指導計画と援助・支援等の理解
3. 実務者を含む様々な講師からの、保育業務に携わる知識・技能についての理解と習得
4. 保育実習Ⅰの反省と保育実習Ⅲへ向けての考察

履修上の注意

1. 保育実習Ⅰ（保育所）を履修予定の学生は必修である。
2. 科目の特性上、原則として遅刻・欠席等は一切認められない。
3. 実習を挟んだ授業展開のため、開講スケジュールは変則的になる場合があるので、講義内および掲示板での告知を各自確認すること。

予習・復習

毎回、指導案・日誌・制作などの課題が出る。それらの課題や作成書類等の提出は、必ず期日を守ること。

評価方法

授業の取り組み態度、講義内での発言（30%）、課題・提出物の内容（50%）及び模擬授業（20%）等から総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：保育所保育指針（平成29年告示）
- ・著者名：厚生労働省
- ・出版社名：フレーベル館
- ・出版年（ISBN）：9784577814239

参考書『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』梅澤 実・森本昭宏/編著
創成社/出版 ISBN：978-4-7944-8099-6